

地域と企業の発展のために、私ども中小企業診断士をご活用ください。



# 岡山県中小企業診断士会会報

2023年12月15日発行（第24号）

一般社団法人 岡山県中小企業診断士会

〒700-0985 岡山市北区厚生町 3-1-15 岡山商工会議所ビル 5階

TEL (086)225-4552 FAX (086)225-4554 URL <https://osmeca.org/>



## 目次

会長あいさつ……1

診断士の日講演会……2

理論政策更新研修開催……2

フォーラム、ミニセミナー……3

10士業活動報告……4

研究会活動……5

スキルアップ勉強会……8

実務従事事業……9

無料相談会……9

台湾視察報告……10

親睦ゴルフ大会……13

寄稿……14

Book review……14

事務局だより……15

## 写真 『GREENable HIRUZEN (グリーンナブル ヒルゼン)』

岡山県真庭市の木材で作られた  
CLT(直交集成板)を使い、東京・晴海  
に建設された隈研吾氏設計監修の  
「CLT PARK HARUMI」が真庭市蒜  
山高原に移築され、“GREENable”の想  
いを具現化する蒜山の新たな観光文化  
発信拠点施設として、生まれ変わりました。  
(説明文:GREENable HIRUZEN ホーム  
ページより)



# 中小企業診断士の役割は専門性とパイプ役



会長 松本直也

本会会員の皆様には本会事業へのご理解・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

経営相談一般から創業、経営革新、経営改善、事業承継、DX 対応、海外展開等、幅広い中小企業支援に対して、中小企業診断士への期待がますます高まっています。

中小企業診断士に期待される役割を、中小企業庁ホームページから参照すると、「診断士は企業の成長戦略の策定について専門的知識をもってアドバイスします。また、策定した成長戦略を実行するに当たって具体的な経営計画を立て、その実績やその後の経営環境の変化を踏まえた支援も行います。このため、診断士は、専門的知識の活用とともに、企業と行政、企業と金融機関等のパイプ役、中小企業施策の適切な活用支援まで、幅広い活動に対応できる知識や能力が求められています。」となっています。

このように我々中小企業診断士が中小企業の成長に向けた支援を行うためには、個々の高い専門性とともに、他の中小企業支援機関との連携による課題設定や解決が必要です。中小企業診断士は、中小企業支援のハブ機能を発揮する者として、専門性と総合性を兼ね備える存在であることを求められています。

今秋の本会事業では、外部講師を招き知見を広める「診断士フォーラム」、10 土業の連携を促進する「土業連携フォーラム」、岡山県中小企業活性化

協議会との連携事業である「中小企業再生合同勉強会」、公益財団法人日本台湾交流協会への訪問や台湾進出企業の視察を通じて同地のビジネス事情を学ぶ「海外視察研修」、本会会員に加え中小企業者や行政、中小企業支援機関等の皆様の参加をいただいた「診断士の日シンポジウム」、岡山県事業承継・引継ぎ支援センターとの連携事業である「事業承継計画書講習会」等の開催を通じて、中小企業支援の専門性とネットワークづくりの促進を図りました。

今後も同様の取り組みを通じて本会会員の専門性向上やネットワーク充実を図っていきたいと考えています。ますますの皆様のご参加をお待ちしております。

新春の取り組みとして、令和6年1月14日(日)に新春フォーラムを開催します。講師に日下企業経営相談所代表の日下智晴様に「激動する金融環境における企業支援の在り方」と題してご講演をいただきます。こちらも多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

一般社団法人岡山県中小企業診断士会 新春フォーラム

特別講演

日下企業経営相談所代表 (元金融庁地域金融企画室長)

## 日下 智晴 氏

激動する金融環境における企業支援の在り方

2024.1.14日 開場14:30 15:00~

会場: サン・ビーチOKAYAMA  
岡山県北區新町2-3-31 TEL: 086-225-0631

【講演会の部】(15:00~16:50)  
・対象:岡山県中小企業診断士会会員  
・会費:無料

【新年会の部】(17:00~19:00)  
・対象:岡山県中小企業診断士会会員  
・会費:2,000円

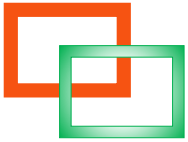
●申込は、所属 氏名・電話番号、講演会・新年会のどちらかで  
申込先にご記入の上、1/7(19時)までに、FAXまたはメールで

FAX:086-225-4554 Mail:omseca@optac.or.jp

講師 Profile

神戸大学経営学部卒業後、株式会社広島銀行に入行、総合企画部副部長、融資企画部長、大阪支店長、1st副総務部長などを歴任。同行退職後は本職回到り、1st、2nd「地域金融企画室室長」に就任。以後、地域金融生産性向上支援室長、地域課題解決支援室長を歴任。2021年9月に金融庁を定年退職。現在は日下企業経営相談所にて多くの企業経営者の相談に当たっている。

主催:お問合わせ 一般社団法人岡山県中小企業診断士会 TEL:086-225-4952



## モノづくり中小企業における新規事業成功事例

令和5年11月21日(火)、「中小企業診断士の日」の記念事業として、「モノづくり中小企業における新規事業成功事例～アイデアゼロからスタートしたプロジェクトはなぜ成功したのか～」をテーマとした講演会を「ピュアリティまきび」(岡山市)にて開催しました。参加者は一般企業、各士業、金融機関等から48名でした。

三乗工業株式会社(総社市・自動車部品メーカー)の新規事業のミノリサイレンサー事業のハンズオン支援などを解説、成功する新規事業のポイントの紹介がありました。

また、市場参入余地の見つけ方について、分かり易い説明でした。



講師 高杉康成 診断士

参加者：講演会72名、懇親会30名



## 理論政策更新研修を開催

「新しい中小企業施策について」では、国内中小企業の現状について解説頂いた上で、事業承継、女性活躍の支援策等、最新の中小企業施策のポイントを説明いただきました。「イノベーション・マネジメントに基づくコーチング型伴走による経営革新」では、具体的な中小企業の支援事例を通して、事業承継を機に経営革新を進めるコーチングの在り方について講義・演習をし、実践的・具体的な内容で高い評価の声が挙がりました。

日時：令和5年8月20日(日)  
12時50分～17時00分  
会場名：岡山コンベンションセンター  
レセプションホール  
受講者数：196人(うちリモート79人)



【西村裕希 様】



【浜崎義樹 様】

内容：

- ・「新しい中小企業施策について」中国経済産業局産業部 中小企業課総括係長 西村裕希 様
- ・イノベーション・マネジメントに基づくコーチング型伴走による経営革新(講義、演習)  
株式会社シンク・アイホールディングス 取締役 浜崎義樹 様

日 時：令和5年9月10日(日)10:00~12:00

場 所：岡山市中区西川原 255 おかやま西川原プラザ 第6会議室

参加者数：20名

今回は、中小企業診断士という資格を持ちながら、ガラス作家としてご活躍されている野田朗子様をお招きし、「アートを通じてのコミュニケーション」と題した講演をお聞きしました。

野田様は同志社大学大学院総合政策科学研究科を修了後、神戸新聞、博報堂でのご勤務を経て、思い切ったジョブチェンジを図り東京藝術大学大学院へ進み、ガラス作家として独立という多彩なご経験をされており、前半はそのご経験談にグッと引き込まれました。

後半はご自身のアーティストとしての立ち位置から、ビジネスでも求められる「アート思考」についてお話をいただきました。価値観が多様化する経営環境の中で、ロジカルシンキングが行き詰まりを見せる今日において、付加価値を生み出す思考法、発想法について示唆に富んだお話をいただき、診断士活動においても大変参考になりました。

講演後の質問タイムでは、芸術家肌のクライアントからの経営相談への対応について訊かれ、具体的な補助金の話に言及されるなど、視野の広い大変魅力的な方でした。

フォーラム委員会では、今後も診断士活動に役立つフォーラムを企画して参ります。

積極的なご参加をどうぞよろしくお願いいたします。



講師 ガラス作家 野田朗子 様

令和5年7月22日(土)に、「コンサルタントの ChatGPT 活用術～可能性は無限大！最新 AI 技術はどう使うか」と題し、内田哲司会員、大友隆史会員の講師による ZOOM ミニセミナーを開催しました。

参加者は51名でした。アンケートでも、診断士業務の中で ChatGPT を活用したデータ収集の仕方が参考になったと大変好評でした。



## 10士業フォーラム・ゴルフ大会参加

### ① 第9回士業連携フォーラム

岡山弁護士会、日本公認会計士協会岡山県部会から当該士業の業務内容の紹介が各30分あったのち懇親会を行い相互に交流を深めました。

日時：令和5年9月26日(火)18時から

場所：ピュアリティまきび

参加者：130名



### ① 第40回岡山自由業団体連絡協議会親睦ゴルフ大会

#### 士業親睦ゴルフ大会に7名が参加

岡山自由業団体連絡協議会主催の親睦ゴルフ大会が、令和5年9月23日(土)に鬼ノ城ゴルフ倶楽部にて開催されました。

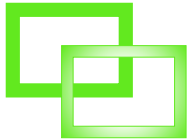
今回は第40回の開催とのことでした。当日は好天にも恵まれ、7士業から48名が参加しました。診断士会からは7名が参加し、他士業の皆さんと交流を深めながらラウンドすることができました。

診断士会メンバーでの最高位は4位の北川誠さんでした。

参加された皆さん、大変お疲れ様でした。

(参加者：乙倉淳、北川誠、草野栄路、佐藤康之、高杉康成、松本直也、吉田正人)





# 研究会活動

## 地域活性化研究会

代表者 安藤 覺

当会は、中小企業診断士として地域を活性化するためにはどのような貢献ができるのか、を考えて活動を続けています。現在は地域活性化の鍵として観光に着目し、『岡山県の体験型・着地型観光の調査・研究』というテーマで活動しています。

当面の活動として“総社市の体験型・着地型観光にはどのようなものがあるのか”を調査・研究しています。そのため「総社市役所観光プロジェクト課」及び「総社市観光協会」「総社商工会議所」の3機関に対し、現地にてヒアリングを実施し、総社市の観光の現状、総社市の観光振興の今後の見通し、総社市の売り出すべき体験型・着地型観光素材にはどのようなものがあるのか、等について検討しています。我々としては単に調査だけに終わらせずに、各機関に観光面から地域活性化に貢献できるような提案を実施できるように活動を続けていきたいと思っています。

現在9名の正会員と1名の女性オブザーバー(総社市在住専門家)の計10名で活動しています。研究会活動としては原則として2カ月に一度のミーティングと都度の現地調査の実施です。地域活性化に興味のある方であればどなたでも入会できますので、入会希望の方は遠慮なく安藤までお申し出ください。



総社市観光プロジェクト課にて



総社商工会議所にて



## AI研究会

代表者 大友 隆史

当会は、2018年8月に発足しました。

現在、研究会メンバーは8名(太田、岡本、入矢、田中、内田、中津、長野、大友)です。

参加者全員がプログラミング経験者、システム開発経験者です。

AIやITの技術的な部分を含めた研究を行うことによる中小企業診断士としてのスキル向上を目的として、月に1回程度集合して研究会を開催し、AIやITについての情報交流やテーマ研究を行っております。

今年度は、「中小製造業の生産管理等の改善に資するAIの開発」をテーマに掲げ、製造業の現場データを分析するためのAIプログラム開発に、全員で取り組んでいます。

Python言語を活用したAIプログラムで在庫管理の適正化を実現すべく、実際の生産管理システムデータを活用して構築した「安全在庫算出プログラム」へ機械学習やディープラーニングを活用するための研究に取り組んでいます。

現在は、ブラウザ上でPython言語を記述・実行可能な開発プラットフォームである、Google Colaboratory(グーグルコラボレートリー、グーグルコラボ)を利用して、開発・研究を進めております。

これからもじっくりとAIプログラミングの実践研究を進めつつ、ChatGPTの中小企業への活用などを含めた「中小企業におけるAI活用の最前線の研究」にも取り組んでいきます。

システム開発者、またはデータサイエンティストを目指す中小企業診断士の方のご参加をお待ちしています。

## プロコンのためのスキル開発研究会

代表者 國米 泰弘

当会は実務的かつ実践的であることをモットーとして、「収益向上」という本来のニーズに応えられる王道の経営コンサルタントを目指し日々研究しています。

コンサルタントの成果＝「人間力」×「営業力」×「商品力」として「商品力」はそれぞれ新たに開発あるいは導入すべきものと考えます。

進め方は仕事や生活での気づきを共有するなどですが、今年度はたとえばコンサルの場で有効と思われる経営コーチングの技法や対話ツールなど様々な役立つ情報の共有などをオンラインでの会合で行うなどしています。

当会への参加を希望される方、歓迎しますので、お声かけ下さい。AI 到来後のコンサル業界で真の実力の養成を目指している方、共に楽しく成長しましょう！



## ものづくり企業研究会

代表者 亀山 友一郎

当会は製造業をはじめとした“ものづくり企業”をより強力に支援していくことを目的に研究活動を行っています。

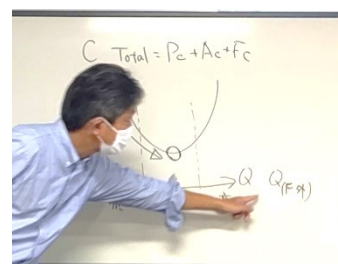
昨年度は調査研究事業を完遂したことから、今年度は中期活動計画の策定から始め当研究会の「志」「夢」「信念」として明文化しました。(下欄に記載)これを軸に具体的なアクションとして外部セミナーの開催を計画し、複数の支援機関へのニーズ調査を踏まえメインテーマを決定したところです。これからメンバーそれぞれの英知を結集しセミナーの骨子を固め支援機関にプレゼンする予定です。

先般、永年に渡り当研究会など多方面でご指導頂いた岡田貞夫先生(当会 OB)が勇退されました。

当研究会では岡田先生による勉強会が大変好評でしたので、現在もメンバー相互による勉強会として承継しています。これまで「品質コスト」「製造原価管理」について開催し、今後は「タグチメソッド」の勉強会を開催する予定です。



岡田先生への感謝の贈り物



勉強会の様子

Purpose:当研究会のコンサルティングにより、地域の製造業の企業価値を向上させる

Dream:当研究会による、書籍の発行やセミナー及びコンサルタント活動を事業化する

Belief

当研究会にて製造業のコンサルが出来る人を増やし、互いに切磋琢磨し継続的にスキルアップを図る

## サステナビリティ経営研究会

代表者 石井 正樹

当研究会は、サステナビリティ（持続可能な）経営＝「両利きの経営」と捉え、その理解を深めるとともに、具体的な導入プロセスを研究しています。中小企業が無理なくサステナビリティ経営を実現できるように、診断士として助言・提案力を身につけることを目指しています。

2023年11月現在5名で活動しており、平日夜・土日中心に1か月に1度程度の勉強会（原則オンライン）及び、実践力向上のために事業者へ実務支援も行なっております。

ご興味ありましたら、代表の石井正樹までお声がけください。



## 問題解決力向上研究会

代表者 内田 哲司

当研究会は2カ月に1回のペースで活動しており、中小企業の問題解決と支援する我々コンサルタントの業務効率化にChatGPT等の生成AIをどのように活用できるか研究しています。

以下は当研究会で検証したChatGPT活用の一例です。

- ・統計データの分析
- ・専門資料の要点整理
- ・ヒアリングメモなどの断片的な情報の整理
- ・アイデア創出やビジネスプロセスの改善シーンでのブレインストーミング
- ・ロゴなどのオリジナルデザイン作成
- ・Google マップの口コミ情報やインスタグラムの投稿情報を効率的に収集・分析するプログラム作成、さらに、ChatGPTの最新アップデートでは、特定の目的でカスタマイズ可能な、「GPTs」がリリースされました。これは、独自のChatGPTを作成できるもので、たとえば自社の商品の詳細情報のテキストデータ（公開してよい情報のみ）をアップロードすれば、商品問い合わせチャットボットとして活用できます。

このように、生成AIは急速な進化を続けており、コンサルティングのツールとしても益々欠かせないものとなっています。

当研究会としては、今後、生成AIを、クライアントや支援する我々コンサルタントがどのように活用できるか、様々なニーズを拾い上げ、それに応じた活用方法を研究していきたいと考えています。

また、当研究会では、生成AIを活用した問題解決を実践すべく、それに応じていただける方を募集しています。ChatGPTの活用に関心のある方は、ぜひ当研究会へご依頼ください。



## 循環ビジネス研究会

代表者 藤原 敬明

産業革命時代から平均温度の上昇を1.5°Cに抑える活動が気候変動枠組条約の締結国会議(COP)の場で地球温暖化対策としてCO2削減が行われています。今年までで既に1.2°C上昇したとして地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化に入ったと言われてしています。

地球温暖化対策に熱心な欧州では2030年までに純電気自動車（EV若しくはBEVと書かれることもある）の普及を強力に推進しています。このEVシフトはハイブリット（HV）車で優位に立つ日本メーカーに対抗するEUの産業政策もあるように見受けられます。日本の自動車メーカーではクルマを電気自動車に転換しても電気を発電する時に多くのCO2を排出していることから全体としてCO2排出量を減らす戦略を採用していました。しかしEVシフトが強い欧州の世論に押され日本メーカーもEV車の開発を加速させています。



ただ自動車メーカーによって戦略は少し異なっているように見受けられます。トヨタはEVのほかにHVや水素エンジン車等の全方位戦略を最も強く推進しています。マツダはEVシフトに対応する他にロータリーエンジンを使用したPHV車の開発も行っています。

一方、三菱自動車はEVシフトの進んだ中国市場から撤退し、既存の経営資源を活用させることを選択したように見られます。EVに対しては市場が確立してから本格参入する戦略のように見受けられます。また今までクルマのボディは鋼板で製造されていたが、ギガキャストというアルミ鋳造が使用されようとしています。EVシフトの取組みの波が中小企業にも到達し始めたように見受けられます。中小企業にとってもEVシフトに対応する戦略はその企業の持つ強み・特徴を反映して様々になると考えられます。

循環ビジネス研究会は持続可能な経済活動について研究しています。

研究する仲間を募集しています。よろしくお願ひします。



## スキルアップ勉強会

### 「中小企業再生合同勉強会」

令和5年10月28日(土)におかやま西川原プラザにて、岡山県中小企業活性化協議会との合同勉強会を開催しました。

事業者再生支援の重要性は近年ますます高まっており、地域経済や雇用への影響もあるため、我々中小企業診断士の更なるスキルアップが求められています。

岡山県中小企業活性化協議会からは4人の講師にお越しいただき、当会会員の参加者は32名でした。

内容は岡山県中小企業活性化協議会の概要から、活動実績、事業再生の流れ、各種支援の内容、作成書類について等、事例も踏まえ、具体的に詳細なレクチャーをいただきました。

最後に意見交換を行いました。時間いっぱいまで質問が続き、会員の関心の高さが表れた勉強会でした。



### 「事業承継計画書作成講習会」



講師:北畠雄一診断士

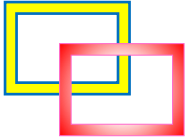
令和5年12月9日(土)に、事業承継支援について学ぶ講習会を、岡山コンベンションセンターにて開催しました。中小企業基盤整備機構から金原様、石田様お二人の講師の方をお招きしました。

内容は「そもそも事業承継とは？」に始まり、事業承継計画策定のポイント・留意点の解説や、多くの具体的支援事例や中小機構のIT支援ツール活用についても最新の情報を聞くことができました。

また、当会会員の北畠さんによる岡山県事業承継・引継ぎセンターとの連携についてなどの話を聞くことができました。

参加者は37名で、国が政策として掲げている事業承継支援について、会員の関心の高さが表れた、大変有意義な講習会でした。





## 女子バレーボールチームの成長戦略

本年度の第1回実務従事事業には、2名の企業内診断士の方が参加しました。

今回の事業では、倉敷アブレイズというプロの女子バレーボールチームが、地域の方々に愛され応援されるチームに成長発展していくための戦略を提案しました。倉敷アブレイズとは、2019年に発足した女子バレーボールチームで、2022年に全国6人制バレーボールリーグ大会で準優勝し、2023-24シーズンよりVリーグへ参戦するという成長途上にあるチームです。

提案にあたり、運営会社社長から時間をかけてヒアリングをするとともに、自社所有の専用体育館の視察も行うことで、現状の課題や事業成長の可能性について確認しました。ヒアリングについては、事前にプロコン診断士等と打ち合わせをし、事業者様にとってより有益な提案ができるよう準備を行いました。

事業者への提案は、SWOT分析等を用いつつ、マーケティング戦略、チームのブランド構築、地域との関係強化、安定的な基盤を築くための収益目標の設計や財務管理強化等、多岐にわたる側面から提案をしています。また、提案書は他社の成功事例等を多数盛り込み、経営課題に対し具体的なアクションが起こせるものとなっています。参加者の方々が、企業内で培ったスキルを十分に生かし導き出した実践的なアイデアが詰め込まれた内容になっています。

今回の事業を通じて、倉敷市のプロスポーツチームが地域の誇りとなり、多くの市民から支持される存在になることを強く期待するとともに、この度の提案がチームの発展に寄与することを願っております。

本事業は、企業内では経験する事の出来ない企業支援実務です。中小企業診断士として経営者の伴走者となり中小企業経営を盛り上げていくために必要な知識の習得と独立の際に必要な実践的な経験ができる事業であり、企業内診断士の方々には今後さらに本事業に参加していただくことを期待しています。



倉敷アブレイズ

試合日程：<https://kurashiki-ablaze.jp/news/news231024.html>

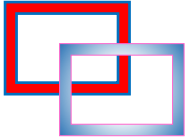


## 無料相談会開催（岡山県しんきん合同ビジネス交流会）

日時 令和5年9月13日（水）13:00～17:00

場所 コンベックス岡山 大、中、小展示場（岡山市北区大内田 675）

県内7信用金庫、（公財）岡山県産業振興財団、（株）日本政策公庫など合同で「第17回岡山県しんきん合同ビジネス交流会」が開催され、当会は会場に相談ブースを設置し、長野和矢会員、黒田俊彦会員により無料相談会を実施しました。



## 台湾視察から感じた中小企業の経済事情

令和5年11月8日（水）～11日（土）の4日間、4年振りの研修委員会海外視察事業として、台湾視察を実施しました。（参加者（敬称略）：松本、太田、乙倉、草野、入矢、大月、津田、小川、小泉、田中、中原、山中の計12名）

今回の海外視察事業は（1）診断士として台湾進出支援のスキルアップ（2）岡山県内中小企業の台湾進出可能性探求を目的として、台湾に進出している日系企業等を訪問し、コロナ禍による経営への影響やコロナ禍での変化、台湾の労働・雇用環境について活発な意見交換により見識を深めました。

企業等視察は、渡台2日目（11月9日）と3日目（11月10日）の2日間で実施しました。

【11月9日（木） 10：30～11：40】

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所を訪問しました。

台湾と日本は外交関係がないため、在外公館（大使館・総領事館・政府代表部）や日本貿易振興機構（JETRO）がありません。それを代替する機能として、台湾で邦人保護や査証発給関連業務などの役割を担う「公益財団法人日本台湾交流協会」が存在しています。

訪問後、経済部主任の有田様、Coのフォロー担当の邱様より、「最新台湾概況」と題して台湾の基本概況、経済事情（経済政策・産業・貿易・市場・雇用など）や日系企業の台湾ビジネスの展開事例などをご説明いただき、その後、質疑応答により理解を深めました。



【写真前列中央が有田様】

2022年の人的往来は、台湾人の訪日が年間33.1万人（2018年460万人）、日本人の訪台が年間8.7万人（2018年190万人）。アフターコロナによりビジネスは回復傾向にある中、旅行はまだ戻らずの状況。2022年10月から台湾入境の水際対策が緩和されたものの、航空賃がコロナ前より高くなったことや安い訪台のパック旅行がなかったこと、コロナ禍において安価なホテルが廃業したことが要因とのことでした。

台湾経済は、基幹産業である半導体産業がGDPの成長を牽引してきましたが、2022年は中国経済の伸び悩みや各国のインフレと利上げが大きく影響し成長が鈍化。日本の2倍のスピードで高齢化が進展することや若者の雇用が大きな課題となっています。

また、政治・経済の中心であり、台湾の全人口の1/3弱の人口が集中する台北市・新竹市や近隣地域には土地が不足しているため、近年では台中市や台南市に三井アウトレットパーク、ららぽーとの開業が続いています。2023年8月には台湾3店舗目となるドン・キホーテが新規出店するなど商業ベースで日本から台湾への投資が今後も続く見込みです。

意見交換では、「物価は上昇しているが給料が上がらないため転職が加速している」、「若い世代は貯蓄よりも消費や投資に積極的でありチャレンジ意欲が高い」、「甘いお菓子を好まないため和菓子の展開は難しいかもしれないが、甘いドリンクは人気である」、「ベジタリアンが約1割いるなど健康志向が高い」など台湾の経済・消費に係る最新事情を把握することができ、ご説明いただいた内容を含め、今後の台湾進出支援や次予定の企業訪問にとっても有益かつ有意義な機会となりました。

【11月9日（木） 12：20～14：40】

台湾の会計事務所であり台湾進出支援サービス（会社設立・FIA申請・工商登記等）を展開している Deloitte 台湾の大石様と合流し、近隣の商業施設を移動しながら小売業界や消費者の現状についてご説明をいただき、ランチミーティングにて台湾で働く日本人や日系企業の台湾進出の現状について意見交換を交えながらご教授いただきました。

その後、Deloitte 台湾の事務所にて台湾の国内及び外交政策、経済政策及び情勢、主要・重要産業等についてご説明いただきました。主な内容としては、次のとおりです。

- ・政府主導の需要産業はバイオテクノロジーと自動車・エネルギー関連の脱炭素化ビジネス
- ・バイオテクノロジー業界ではAI技術のトレンドへの対応や資金調達活動が活発化
- ・自動車・電気産業では、EVの国内製造に向けた活動が活発化
- ・欧米航路の輸送量増を背景として海運産業が好調
- ・転職や廃業に抵抗がないこともあり失業率が2001年以降最低水準
- ・台湾のデジタル担当大臣であるオードリー・タン氏の影響もあり、民間企業の人手不足解消に向けた電子化の急速な進展（例：コロナ感染対策アプリの導入など）
- ・若者のスタイルとしては台湾大学等の有名大学卒業後に、外国で学び（働き）、台湾に戻り起業するなどの動きが目立つ
- ・台湾全域に日本料理店は多数あり、日本食材を使用した日本食は台湾で受入れられている など



【11月9日（木） 15：25～17：15】

岡山市に本社のある和菓子製造販売会社の源吉兆庵 HD 台湾法人を訪問しました。

対応いただいたのは総経理の川原様と副理の赤木様。台湾での事業の現状や台湾進出時の課題、コロナ禍における対応などについてご説明いただきました。

1993年に台湾で現地法人を設立。日系百貨店を中心に店舗し、現在8店舗（台北5店舗、台南1店舗、台中1店舗、高雄1店舗）を展開。顧客の約95%が台湾人（40代～60代の高所得者）で集客にはDMが最も効果的とのことでした。

日系百貨店は各国にあります。台湾1号店は高島屋の開業と共に進出。

事業を展開するうえでの主な課題は①ある程度の中国語能力の習得もしくは、英語・日本語を話せる現地従業員の確保（給料が高い）②日本と異なる食材・添加物・色粉等の制限があり通関のハードルが高いことなどが挙げられます。

コロナの影響は大きく、売上が90%ダウンしたこともあり。そのため人件費・固定費が経営を圧迫。加えて従業員感染時のシフト調整や消毒対応が重なり苦労しましたが、固定費の減額交渉や不採算事業の廃止、有休の消化推進でなんとか乗り越えたとのことでした。

台湾では比較的コロナの蔓延を抑止できたため、コロナ禍前後の変化は物価上昇を除くと意外と少ない状況でした。ただし、コロナ禍で撤退を余儀なくされた飲食店・小売店は多く見受けられたとのことでした。

近年の業績は2022年に過去最高売上を更新し、2023年は2022年の最高売上をさらに更新する見込み。コロナ禍で自由に渡航ができなくなったため、台湾域内で日本製品の需要が急増したことが好調な



売上の背景にあるとのことでした。

また、台湾では百貨店の新規出店が続くなど、百貨店の業績が好調。台湾では百貨店は家族で過ごせるSCとして認知されていることが日本の百貨店との大きな違いの一つだそうです。

台湾内での日本人気は依然として高く、外食産業ではくら寿司が台湾で上場するなど人気を博しています。

食に限らずテストマーケティングの場合（例：日本商品展など）は増えていますが台湾人は飽きが早いいため、アイテム数が豊富でなければ継続が困難かもしれないとのことでした。

また、ここ10年間での賃金上昇率は月給対比で137.3%と非常に高くなっています。小売店においては顧客が人（店長など）についているため勤務を継続しやすい魅力ある職場づくりが重要とのことでした。

### 【11月10日（金） 9：55～11：35】

愛知県に本社のある株式会社東海理化の連結子会社で、台湾で自動車用製品を製造販売している理嘉工業股份有限公司を訪問しました。

対応いただいたのは、董事長兼總經理の後田様、資深經理の王様、襄理の林様、經理の張様、協理の堀田様。会社創設以降の歩み、近年のトピックス、コロナ禍による経営への影響、雇用・労働環境などについてお話を伺いました。



「誰もやりたがらないことをやる」という創業精神のもと創業36年目を迎えられました。

主に国瑞（トヨタ）の自動車用電装製品を製造・販売していますが、コロナ禍でも売上はあまり減少しませんでした。その背景にはコロナ禍で感染拡大を防ぐために公共交通機関（鉄道など）の利用が減少し、逆に自動車の利用が増えたことが要因として挙げられます。

とはいえコロナの影響がないわけではありません。輸入時の管理が強化され、船便の遅延が発生。1か月遅延することも珍しくなかったため多大な影響を受けました。そこで従来は在庫を最小限しか持たないようにしていましたが、少量の在庫を持つように変更しました。

（現在では物流も正常な状態に近づいてきたためコロナ前の状態に戻つつあります）

また、トヨタ内での自社の生き残りへの取組も重要であるため、従業員の多能工化・機械の多台持ちの推進や設備投資による内製化の推進など、原価低減や合理化にも積極的に取り組み競争力アップを目指しています。

近年、台湾の自動車業界ではITやAI対応の次世代に向けた製品の研究開発への取組が急進展しています。台湾の国内自動車販売のランキングを見ても、近年は以前台数ランキングTOP10外であったテスラなどの電気自動車や高級輸入車などが上位にランクインしている状況です。



説明を受けた後、全員で工場内を視察させていただきましたが、見事なまでに効率化された生産工程であること、そして従業員の方の表情から充実感が感じられるなど、工場内には一体感があり働き甲斐のある職場が実現されていることに驚かされました。このような職場を創るための方法を尋ねたところ、その一つとして会社全体のベクトルを合わせるために、先人の言葉を動画にし、従業員に創業者の精神（イズム）を浸透させ、共通理解を深めているとのことでした。

働き甲斐のある職場づくりは、自社課題でもある人材確保（外国人登用含む）にも有効な対策となっているようです。やはり仕事に楽しさを求め、早期（就職後2年程度）での転職が増加している台湾全体で人材確保の問題は今後も大きな課題として位置することが推察されました。

### 【参加者による懇親会と各自での台北視察】

11月10日の夜には懇親会を開催。企業視察で学んだこと等について振り返りと今後の活用方法について熱いディスカッションを繰り広げました。また、11日の午後は学んだことを肌で感じ、見聞を広めるために参加者各自で台北を視察しました

商業施設での消費者動向、観光地の回復状況、日本食品の価格等について、台北で発達している地下鉄を活用し、各地を訪れながら台北の「今」を体感し、多くの刺激を得ました。



### 【まとめ】

今回、4年振りに海外視察事業を実施しました。コロナ禍を経験し、長期化する円安、物価高、少子化など国内市場の縮小傾向が継続する中、診断士にとって海外進出支援はより身近になっているように感じます。

参加者には、今回の視察事業で異文化に触れながら、台湾進出企業のこれまでの歩みや今、そして今後について多くの気づきや学びを得たものと確信しております。

特に、コロナ禍を乗り越え、今後に向けて力強く歩み続けている日系企業から生の言葉を多く聞いたことは参加者の財産になりました。


海外進出後、現地で企業活動を継続するためには、海外進出への強い意気込み、進出前の事前準備、成功への惜しみない努力、そして熱い志を5年、10年継続することの重要性を強く感じました。

研修委員会が企画する各種事業に、今後もご期待ください。

(文責：津田健治)

## 第2回 親睦ゴルフ大会

令和5年12月2日(土)に、第2回岡山県中小企業診断士会ゴルフ大会が総社市の吉備カントリークラブにて開催しました。天候は快晴で言い訳のできない中、普段のストレスを解消すべく11名の参加者が技を競い合いました。

栄光の優勝&ベストグロス賞  は近藤厚志さんで、ぶっちぎりの初優勝でした。次回は4月上旬開催の予定です。会員の皆様のふるってのご参加をお待ちしております。



## 会員寄稿

### 経営力再構築伴走支援について

会員 枝 純一郎

経営力再構築伴走支援とは、経営者との「対話と傾聴」を通じて、事業者の「本質的課題」に対する経営者の「気づき・腹落ち」を促すことにより「内発的動機づけ」を行い、事業者の「能動的行動・潜在力」を引き出し、事業者の「自己変革・自走化」を目指すものである。

経営者の相談は、往々にして表面的な課題しかとらえていないことが多い。支援者は「傾聴と対話」を通じて、本質的な課題は何なのかを経営者と一緒に見つけ出していかななくてはならない。経営者の考えが整理され、自ら答えにたどり着いたと実感することができ、結論に対しても「腹落ち」することができれば、経営者は当事者意識を持って、能動的に行動を起こすようになり、「自己変革・自走化」が実現する。

経営力再構築伴走支援は、経営者のあらゆる課題に対する万能の支援策ではないが、これまでの支援では届いていなかった領域を補完する支援であると言えるだろう。

## Book review

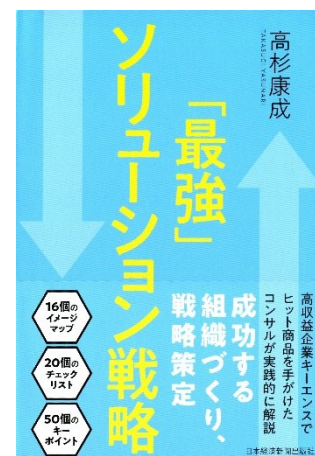
### 「最強」ソリューション戦略

高杉康成 『「最強」ソリューション戦略』  
日本経済新聞出版社,2019

著者は岡山県中小企業診断士会会員であり、2023年の診断士の日記念事業の講師として登壇いただいた。本書についても多くの方が目を通されると推測される。しかし、ペントアップ需要が期待され、量に注目が集まる今日、今一度本書が説く、ソリューション戦略について、思考を巡らせるよい機会だと思う。

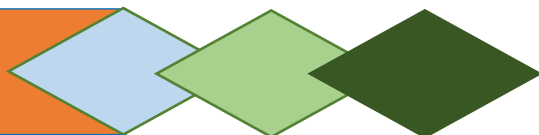
著者は、営業が価格競争に陥らないために、「情報ギャップ」を意識的に作り、顧客の潜在ニーズに対してソリューションを提供することが重要であると主張する。そのための肝の一つとして、組織的な情報マネジメントを挙げている。組織に定着しなければゴーイングコンサーンを目指す企業としては、不十分だ。

著者が目配せをしているのは、企業や顧客企業だけではない。顧客の顧客を考えるとソリューション提案につながる広い視野を与えてくれると論ずる。本書の内容を自身に当てはめ、思考の枠を取っ払ってみることをお勧めする。(会員 宮前善充)





# 事務局だより



## 今後の行事予定



### 新春フォーラム・新年会

日時 令和6年1月14日(日) 15:00~19:00  
 場所 サンピーチ OKAYAMA  
 講師 日下企業経営相談所  
 代表 日下智晴 様  
 テーマ 激動する金融環境における企業支援の在り方



### 3月診断士フォーラム

日時 令和6年3月10日(日) 10:00~12:00  
 場所 岡山県生涯学習センター



### 定時総会・懇親会

日時 令和6年6月22日(土) 15:00~19:30  
 場所 サンピーチ OKAYAMA



### 理論政策更新研修会

日時 令和6年10月6日(日) 12:50~17:00  
 場所 岡山コンベンションセンター  
 レセプションホール (オンライン受講可)

## 会員異動

【退会会員】(敬称略)  
 正会員 小路雅也



2024年(令和6年)は辰(竜)年です。

竜は十二支の中で唯一空想上の動物で、天に昇るとも力強いイメージがあります。来年が竜のように力強く活力溢れる年となりますよう、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

岡山県中小企業診断士会事務局からのお知らせ

◆2023年12月1日現在 会員数

正会員	159人
重複会員	8人
計	167人

◆令和6(平成36)年3月末から4月上旬に登録の有効期間が満了となる中小企業診断士のみなさまへ

岡山県診断士会事務局での申請書類等の預かり期間

令和5年12月15日(金)から令和6年3月19日(月)まで

(土日祝、年末年始を除く)

年始は1月5日からお預かりいたします。

郵送またはご持参いただければと思います。

岡山県中小企業診断士会会報 第24号  
 令和5年12月15日 発行  
 一般社団法人岡山県中小企業診断士会  
 〒700-0907 岡山北区厚生町3-1-15  
 岡山商工会議所ビル5F  
 Tel 086-225-4552  
 Fax 086-225-4554

発行人 会長 松本直也  
 編集人 専務理事 太田記生  
 広報委員会 委員 大月義明

